



# （続）少子化対策の取り組み

## 根本的に不足しているのは何か

貞静学園短期大学学長 奥 明子

少子高齢社会が進む状況下で、1月号では政府の少子化対策に関わる

様々な施策、実施状況を挙げ、その中で、働き方の見直しによる「仕事

と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」とその行動指針も挙げ

させていただきました。戦後、産業構造の変化、都市化と相まって、

家庭の様相も変化し、女性の社会進出の増加とともに、個々人の持つ価

値観が変わってきました。以前は結婚し家庭に入ることが幸福につなが

ると考えていた女性たちが、社会で自己のもつ能力を種々の仕事に活か

せる可能性が広がり、結婚よりも仕事に価値を見いだすようになってき

たのです。政府は多方面から少子化対策に取り組んでいます。果たして

効果が上がっているのか疑問です。3月号では少子化が進む原因と思わ

れるものをいくつか挙げてみたいと思います。

### どうして若者は結婚しないのか

2013年晩秋、NHKのニュースで「結婚・子育て支援」を具体的に

進めていこうと新宿区が独身者の個別面接を始め、その面接場面が映

し出されていきました。30代の男性は、「経済的に不安だから」と、50代の

男性は「このままの方が気楽だから」と答えていました。1月号でも挙げ

ましたが、2010年の「生涯未婚率」(50歳時点で一度も結婚したこ

とがない人の割合)は、男性が約20%、女性が10%で、このまま少子化が進

むと2030年には、男性が30%、女性が約23%と、男性3人に一人、

女性4人に一人が生涯結婚しないという計算になるそうです。国立社会

保障・人口問題研究所が実施した「第14回出生動向基本調査・結婚と出産

に関する全国調査」(2011)によると、いずれは結婚しようと考え

る未婚者の割合が、男性86・3%、女性89・4%と高い水準にあります。

しかし、生涯未婚率が増えていくという事は、その原因の一つとして、

結婚したくても出会いの場が少ない、結婚を考えた時に果たしてやってい

けるかどうか自信がない等、結婚に踏み切れない男女が増えていること

にもあるのではないかと思います。職場内で相手を見つけたことが難し

い、職場外での生き甲斐につながるようなサークル等に参加することも

疲れていて何となくおっくう、仕事が終わったらまっすぐ家に帰って休

んだ方がいい、と考える人が多数いることも原因となっているのではな

いでしょうか。また、日本は、欧米のように大学を卒業したら自立して

家族とは別に生計を立てていくというよりは、戦後、家族の様相が変わ

ったとはいえ、経済的理由もあって、結婚するまで親と一緒に生活する若

者が多いのも事実です。一般的に親と一緒に過ごす方が楽ですから、そ

のことも結婚を躊躇させる一因となっているのかもしれない。

### 小さな対策を大切に

多少なりとも未婚の解消策になるのではないかと思われる一例を挙げて

みます。本学の位置する文京区は、「高齢者あんしん相談センター」を

開設し、高齢者の自立した生活や権利擁護を支援し、介護保険や福祉サ

ービスの相談・申請ができます。「高齢者窓口」を設けています。それと同

じに考えることはできませんが、自治体が何らかの形で若者の婚活支援をしてあげることができないでしようか。今の若者たちは、町内会とはほとんど関わりを持たずに生活しています。以前は、近隣のおつきあいが発発で、年配の方が良縁を紹介してくれたというケースもよく聞きました。すでに何らかの施策を実施している自治体もあるようですが、若者たちが「結婚」を前向きに考えられる機会を設けてあげるよう検討する等、わずかな可能性にも目を向けることが大切ではないかと思えます。

## 結婚・出産・子育てに安心な経済政策を

2013年12月25日の朝日新聞に、2014年度政府予算案の一つとして「保育所充実へ6929億円をあてる」という記事が載っていました。働く女性への支援策ですが、ここで疑問に思ったことは、結婚・出産後も仕事を継続したいと考えている女性などの程度いるのかということでした。私の周囲にいた大学院卒の女性のほとんどが、キャリアウーマンとして十分に仕事を続けていく能力があるのに、結婚して家庭に入り子

育てをして、機会があれば何か仕事をと考えると、結婚相手の事情もありましたが、彼女たちは仕事よりも結婚を選び、納得して仕事を辞めていきました。共働きをしなければ生活するのが難しい時代になっているとはいえ、二者択一を迫られた時、仕事よりも結婚を選び夫の給料で生活をしたいこうと考える女性はまだ多く、また最近増えてきたとも聞きます。保育所の充実を図るためには、保育所運営に欠かせない相当数の保育士養成をすることも、2013年に政府が打ち出した「待機児童解消加速化プラン」の中に入っています。が、そう簡単に保育所数に見合う保育士数を増やすことはできません。結婚して出産後も働く女性たちと、家庭に入って子育てをしていく女性たちの両方に、メリットがある政策がないと結婚希望者が増えないのではないかと思えます。

政府の少子化対策は、ともすれば働く女性が子育てしやすいように、その点に比重が置かれた政策に思われます。仕事を続けながら子育てをする女性たちは勿論、家庭で夫の収入だけで生活・子育てをしようと努力している女性たちも、安心して出

## ゆりかごから墓場まで安心な社会を

産・育児をするには、企業の協力的ではやっていけないと思えますが、政府が子ども手当や修学手当等を手厚くしていくことも重要と考えます。

以前から、特別養護老人ホームは200人から300人の空き待ち状態、有料老人ホームは非常に高額な費用がかかる、ケアハウスも満室とよく聞きます。定年を迎え老齢期を一人で過ごしていくのは寂しいのではないのでしょうか。その上、買い物・食事の支度も思うようにできなくなったらどうするのでしょうか。

2013年12月30日の朝日新聞に「新宿の団地老いて独り」という見出しで、都営戸山団地の様子が書かれています。戸山団地は、6〜7年前から「相次ぐ孤独死」「都会の限界集落」と言われるようになり、2013年も孤独死で発見された高齢者が何人もいたそうです。東京都監察医務院の統計によると、2012年に東京23区内での孤独死は計4472人で、この約10年で1.5倍に増え、平均すると毎日12人が孤独死している計算になるとのことです。政府は介護予防・在宅介護に力を入れ、

地域包括センター等で、医師、看護師、保健師、ケアマネジャーたちが連携を組みケアプランを立て、医療・看護・介護を進めています。しかし、2014年4月以降順次、70歳から患者が窓口で払う医療費が現在の1割から2割に引き上げられ（74歳まで）、逆に年金の支給額は2014年4月分から0.7%減額されるという、到底理解できない予算案が出されています。お金がなくて医者に診てもらえず孤独死という、最悪の事態にもなりかねないと危惧しています。

今後ますます独居老人、孤独死が増えていくことは避けられないかも知れません。しかし、多くの家族が看取ってあげた50年も前の親子3世代同居の時代にも戻れない状況下で、若者たちが安心して結婚・出産・育児ができ、さらに老後も保証されるような、未来への展望が持てる社会にならなければ少子化は解消されないと思えます。私たちが何を今一番しなければならぬか、非常に厳しい状況に皆が置かれていることを、各々が自分のこととして受け止め、真剣に考えなければならぬのではないのでしょうか。